1日目 セッション概要

製造・サービストラック

MS-1 国際宇宙ステーションにおけるソフトウエアの安全・開発保証管理

8/30 13:10

宇宙航空研究開発機構　PM　長谷川　義幸
主任開発員　酒井　純一、主任開発員　上杉　正人 CFP

■**セッション概要**　国際宇宙ステーション開発は米国、ロシア等世界15カ国が機器を分担製作し、宇宙空間で組立てる国際協力プロジェクトである。日本はこのプロジェクトに独自の実験棟「きぼう」を開発し参加している。
国際宇宙ステーションでは、誤動作や誤操作が生命の安全を脅かす恐れがあるために、搭載されるソフトウエアの安全・開発保証管理が重要となっている。
本報告では、「きぼう」の開発においてNASAから学んだ有人宇宙船のソフトウエア安全設計思想、その開発管理手法および独立検証活動について説明する。

■**講演者略歴**　長谷川　義幸：1976年宇宙開発事業団入社。1995年より宇宙ステーション日本実験棟開発に従事。2003年より運用プロジェクトに参加。酒井　純一：1990年入社。日本実験棟計算機制御システム開発に従事。上杉正人：1987年入社。日本実験棟通信制御システム開発に従事。

MS-2 マトリクス体制における同時並行開発プロジェクト管理の実践

8/30 14:20

株式会社 RDPi
代表取締役　石橋　良造

■**セッション概要**　製造業における製品開発組織はマトリクス体制を採用しているところが多い。しかしながら、マトリクス体制ではプロジェクトと組織とが密接に絡み合っており、単純なプロジェクト管理手法では進捗管理すら機能しないことがある。
本講演では、メトリクスによるプロジェクト管理の基本、および、マトリクス体制におけるメトリクスとその利用方法を紹介する。ねらいは、マトリクス体制のもとで複数プロジェクトを適正にコントロールするためのノウハウを、実例を交えながらお伝えすることである。

■**講演者略歴**　日本ヒューレット・パッカードにて半導体計測システムの開発に従事の後、社内の製品開発改革プロジェクトに参加。その後、製品開発マネジメントに対するコンサルタントとなる。アジレント・テクノロジーに移籍の後、現在は株式会社RDPi を設立しコンサルティングを実施している。

MS-3 製造外部委託を成功させるPMの肝
グローバル化時代の戦略的外部委託

8/30 15:30

ソレクトロン株式会社
代表取締役社長　竹田　清昭

■**セッション概要**　製造に限らず企業における非コア事業領域の外部委託は、世界規模の競争及び市場参入における重要な事業戦略と認識され、欧米においては積極的に展開されている。そこには、受託元と受託先のPMが密接に連携し、製品（サービス）を最適なサプライ・チェーンによって提供している。
本セッションでは、製造専業として競争優位性を持つEMS（電子機器製造受託サービス）の標準化されたPMプロセスを概説し、製造原価低減のみならずROIの改善による企業価値をも高める戦略的外部委託を指揮するPMの肝を紹介する。

■**講演者略歴**　82年横河ヒューレット・パッカード入社、電子部品事業部セールス・マネジャーを経て99年Agilent Technologies日本法人の半導体部品本部カントリー・マネジャー（執行役員本部長）兼アジア太平洋地域特約店ビジネス事業部長、2004年より現職。

PMの新機軸トラック

NT-1 事業再生にみる組織改革の要諦
「産業再生機構」の経験から

8/30 13:10

ボストンコンサルティンググループ
ヴァイス・プレジデント、ディレクター　秋池　玲子

■**セッション概要**　金融不安の渦中にあった2003年4月「産業と金融の一体再生」を掲げて発足し、本年3月解散した「産業再生機構」は典型的なプロジェクトであり、行政の新しい試みであった。また、事業再生はどの企業にも起こることではないが、そこに見られる組織改革プロジェクトの手法は優良企業にも応用できるものである。
産業再生機構そのもの、またそこで手がけた案件の実例を用いながら、プロジェクトマネジメント、及び組織改革プロジェクトの原則や要諦を紹介する。

■**講演者略歴**　早稲田大学理工学部修士課程卒業。マサチューセッツ工科大学経営学大学院修了。キリンビール、マッキンゼー・アンド・カンパニー、産業再生機構を経て現在に至る。製造業やハイテク分野を中心に成長戦略、組織改革、研究開発マネジメント等のプロジェクトを数多く経験。

NT-2 大都市における開発型不動産の建設プロジェクトマネジメント
事例からみる第4世代の建設PMへの提案

8/30 14:20

鹿島建設（株）東京国際空港原動機センター南棟工事副所長
日本工業大学MOT大学院客員教授　太田　鋼治 CFP

■**セッション概要**　大都市における最近の不動産と建設を融合した開発型不動産証券化案件は、日本型建設PMの新しい方法として注目され、商業ビルやオフィスビルでは、集客力を考えた斬新なデザインと空間に伴い、高度でトータルな技術及びPMが要求されるようになった。
本件は、都心の商業店舗ビル事例を取り挙げ、複雑な権利調整と価値創出の最大化が要求されるプロジェクトにおけるPM手法の取り組みを紹介すると同時に、「PFI」や海外型EPC工事などを含む第4世代の新しい建設PMの可能性を提案する。

■**講演者略歴**　1979年芝工大大学院卒、同年鹿島建設入社、1989年ロンドン大学院BEM卒、16年間シンガポール、英国の海外工事後、現在、不動産投資型、国内EPC工事など第4世代の建設PMに従事。2006年太平洋QS国際会議日本代表、国際P2M学会会員、工学博士、一級建築士、一級建築施工管理士。

NT-3 エネルギーピークにどう備えるのか

8/30 15:30

工学博士　東京大学名誉教授
もったいない学会会長　石井　吉徳

■**セッション概要**　地球は有限、自然にも限りがある。これが私の思考の原点、また考える基本方針でもある。これは地球物理学者である私には当然だが、一般的にはなかなか理解されない。
21世紀の人類の課題は「エネルギー資源と地球環境」である。
地球温暖化と同時に石油のピークがはっきりしてきた。
世界はこのリスクへの準備を進めているが、日本は大学においてさえもエネルギーリスクの存在を否定している。
資源争奪戦で石炭・ウランもピークを迎えるエネルギーピークに日本は基本戦略を持って備えなければならない。

■**講演者略歴**　1955年東京大学理学部物理学科（地球物理）卒業。石油開発産業を経て、1971年東京大学工学部資源開発工学科助教授、1978年教授。1993年退官し名誉教授。国立環境研究所副所長を経て1996年から1998年まで所長。2000年より2006年富山国際大学教授。

NT-4 P2M標準ガイドブック改訂の概要
改訂方針と主要改訂ポイントの説明

8/30 16:40

国立大学法人名古屋工業大学大学院（社会工学専攻）
教授　清水　基夫

■**セッション概要**　日本プロジェクトマネジメント協会（PMAJ）の基軸となっているP2M標準ガイドブックは、日本発のPM標準として今日までにかなりの普及をみせ、世界的にも知られる存在になっている。しかし、発刊から5年以上を経過し、世の中の進歩や環境の変化に合わせて見直しが必要な部分があること、また資格者、関係者等からさらなる改善に向けて強い要望があることを踏まえ、PMAJ内にP2M改訂委員会を設置し改訂作業を行ってきた。
その結果がほぼまとまったので、このシンポジウムの機会をとらえ、その改訂の概要を公表するものである。

■**講演者略歴**　NEC宇宙部門にてレーザ・ミリ波開発部長、宇宙開発事業部長代理、宇宙ステーション・システム本部長等として光ファイバ通信、衛星間レーザ通信システム、宇宙ステーション通信制御系開発など各種プログラムを担当。平成13年より名古屋工業大学教授、副学長（平成16・17年度）。工学博士

金融・保険トラック

FI-1 ユーザ企業から見たITプロジェクトマネジメント
なぜ、MCPは成功したのか!?

8/30 13:10

アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）
システム開発サポート部プロセス管理G　課長　山科　直樹

■**セッション概要**　ITプロジェクトマネジメントについては、受注側視点での研究や論文が数多く見受けられる。
しかし、プロジェクトの成否を左右する要素は顧客である発注者にも多分に存在している。「ユーザの協力が得られない」「レビューに時間がかかる」などが端的な例である。
副題のMCPとは、昨年実施したメインフレーム統合プロジェクトの略称である。このプロジェクトの成功要因を例に、ユーザ企業から見たITプロジェクトマネジメントの在り方を提唱する。

■**講演者略歴**　1991年国内生保系システム開発会社に入社。1998年アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）に入社。主に個人保険の契約管理システムを担当。昨年、メインフレーム統合プロジェクトのPMに従事し成功裡に完了させた。

FI-2 本邦決済システムの国際化へのチャレンジ
企業ニーズと解決の糸口

8/30 14:20

スイフトジャパン　コマーシャルディビジョン
バイスプレジデント　吉見　亨

■**セッション概要**　スイフトは、ベルギーに本部をおく国際銀行間通信協会の略称であり、30年超にわたり通信手順の標準化、世界的なネットワークの整備により、決済を通じた金融業務の効率化に貢献している。企業のグローバル化が進む一方、本邦の決済システムは独自の体系を有しており問題点が指摘されている。
グローバルに財務資金管理を志向する多国籍企業の支援を通じた企業ニーズに応えるIT・PMの糸口について紹介したい。また、本邦決済システムとの協業を模索し得られた教訓などをPMの観点から共有し、今後の方向性を探る。

■**講演者略歴**　1981年三菱銀行（当時）入社、東京・ロンドンなど内外で決済事務、システムプロジェクトを経験。1998年ボレロインターナショナル（ロンドン）にて貿易電子化の推進。2001年よりスイフトジャパンにて、内外の主要銀行との取引や企業との取引を担当。

FI-3 確信犯へ対抗する合理的なセキュリティ対策とは

8/30 15:30

株式会社ラック
取締役執行役員　研究開発本部長　西本　逸郎

■**セッション概要**　昨今のセキュリティ対策への要求は、法や基準等へ対応するためのものが多く、偶発的に発生する事故、愉快犯や模倣犯レベルの対策には有効であるが、組織力を持った確信犯への対策は視野に入れられないのが実情である。
最近のトレンドからその背景を説明し、金融機関として本来なすべきセキュリティ対策の考え方を、紐解いてみる。

■**講演者略歴**　昭和61年 株式会社ラック入社 情報セキュリティ対策をテーマに講演多数　株式会社ラック取締役執行役員研究開発本部長、特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会 理事 政策部会長、セキュリティ評価WGリーダ/ST作成WGリーダ（歴任）、平成16年4月～熊本大学大学院自然科学研究科在籍

FI-4 金融機関におけるリスク管理の現状
事例からみたリスク管理の具体策

8/30 16:40

日本銀行　金融機構局
企画役　岩佐　智仁

■**セッション概要**　金融機関経営にとって、コンピュータシステムの活用は不可欠なものとなっており、開発・運用に当たっては、様々なリスク軽減策を適切に施すことが肝要である。リスク対策は、技術動向の変化や新たな金融犯罪の出現等にあわせて、随時見直す必要がある。しかし、経営層の重要性認識が不十分な結果、プロジェクト管理体制が全社横断的なものとなっていない事例などが見られる。
日本銀行が2007年3月に公表した「事例からみたコンピュータ・システム・リスク管理の具体策」をもとに、課題と対応のあり方を説明する。

■**講演者略歴**　長年、日本銀行のIT部署で、システム企画・開発に従事。ホスト系・オープン系における、アプリケーション開発、インフラ構築等を担当。数年前から、現部署において、金融機関におけるシステム・リスク管理の考査・調査等に従事。FISCの「安全対策基準改訂検討部会」委員。